EU 食品ラベルレポート・最終号 2023 年 2 月

2023 年 2 月

EuroVision&Associates

目次

1. 欧州委員会提案に関する動き 3
2. 欧州議会の動き 5
3. その他のラベルに関する動き 7
3.1. 日付表示 7
3.2. 持続可能性表示 7
3.3. グリーン・クレーム 7
3.4. アニマルウェルフェア・ラベル 8
3.5. 点字表示 9

1. 欧州委員会提案に関する動き

2023 年 1 月 9 日、EU 理事会議長国スウェーデンの EU 代表部農業担当者にヒアリングしたところ、欧州委員会からの包装前食品栄養表示ラベル(FOPNL)の提案は、2022 年中という当初の予定から大幅に遅れ、本年第 2 四半期(2023 年 4 月から 6 月にかけて）に発表されることになるという。但し、後述の通り、欧州議会からはそもそも提案は無くなった(キャンセルされた)という情報もあり、混とんとしている。

同法案を巡っては、EU のステークホルダー、加盟国、欧州委員会関係者の間の意見が大きく異なり、外交問題にまで発展している。Nutri-Score を掲げるフランスと NutrInform を掲げるイタリアが 2 大派閥となり、EU レベルの意思決定における多数派工作を依然として続けているため、欧州委員会の提案が大幅に遅れている。また、この遅れは、提案される EU 域内の統一的な FOPNL システムの開発経過に関係者が満足していないことの表れとみることができる。現在利用されている Nutri-Score や NutrInform といった主要加盟国で採用されている FOPNL システムは、それぞれの方法論の開発に数年を要した。一方、欧州委員会は、あらゆる関係者を十分に満足させ、EU 理事会や欧州議会に提案を受け入れてもらえるような新制度を、より限られた時間枠で構築しようとしている。すなわち、EU 域内の新制度に対する理解や期待、信頼感の醸成がまだまだ十分とはいえない。

こうした不満は、2022 年 9 月 9 日に発表された、欧州委員会が新制度構築にあたって依拠するエビデンス文書によってさらに高まっている。同文書は、2020 年に発行された「包装前栄養表示制度：エビデンスの更新(Front-of-pack nutrition labelling schemes: an update of the evidence)」と題する、欧州委員会共同研究センター(JRC)発行の政策のための科学報告書の増補版「包装前栄養表示制度：包括的レビュー(Front-of-pack nutrition labelling schemes: a comprehensive review)」である[1]。

このエビデンス文書は、EU の統一的な FOPNL 制度として推奨される類型を概説したものである。増補版として新しくまとめられた情報は、FOPNL 制度が消費者の理解、食品購入、食生活および健康ならびに食品改良に及ぼす影響に関し、旧版の情報を更新した。消費者の関心、好み、多様な FOPNL 制度への理解、FOPNL 制度が食品購入に及ぼす影響および食生活と健康への影響に重点が置かれた。また、FOPNL 制度の導入が、食品の再製造（food reformulation）やイノベーションに関する生産者の取り組みにどの程度影響を与えるかどうかや、FOPNL 導入が意図しない結果をもたらす可能性に注目し、制度に関する知識のギャップと将来の研究の方向性についても説明されている。この増補版は、Farm to Fork 戦略で発表された、義務的な FOPNL 統一制度に関する欧州委員会の提案内容のあり方を提示したものといえる。

JRC 報告書の増補版の主な内容は、以下の通り。

- Nutri-Score のような、信号機のような色分けシステムを推奨している。信号機、健康効果の星評価（Health Star Rating）などを含め、Nutri-Score 方式の FOPNL は、健康に関する選択を改善する上でより効果的である。

[1] https://publications.jrc.ec.europa.eu/repository/bitstream/JRC130125/JRC130125_01.pdf

- 健康的な製品の購入と不健康な製品の購入のどちらか一方にのみ変化を与えるのではなく、健康的な製品が増え不健康な製品が減ることで選択の改善が図れる。
- よりシンプルで評価しやすい色分けされたラベルは、忙しい買い物の中で消費者の情報ニーズによりよく応える。
- 実証試験から得られた結果では、色分けされた FOPNL スキームは、より健康的な食品購入を促す上で、モノクロよりも消費者に役立つ。消費者の理解において、複雑で簡素化されたモノクロのラベルよりも、より単純で評価ごとに分類されたラベル(そのほとんどが色分けを使用している)の方がより理解しやすい。ほとんどの消費者は色つきの FOPNL を好み、同表示の方が目立ち、消費者の注意を惹きつけるという結果であった[2]。

このように JRC 報告書増補版の主たる結論は、Nutri-Score のように、色分けされた単純な信号機のようなシステムが特に好まれるというものである。Nutri-Score を推奨システムとすることを批判するステークホルダーに対し、欧州委員会や JRC の関係者から明確な回答が出されない中でこうした結論が出されたことにより、ステークホルダー間の緊張がさらに高まることとなった。すなわち、欧州委員会が自らの見解を理事会や議会の関係機関に対し明確に語らない一方で、JRC 報告書では Nutri-Score の色分けを支持するやり方に批判が集まった。こうした不透明なアプローチが、EU 理事会における加盟国間の対立を生み、欧州委員会による提案作業の遅れやその発表の行き詰まりを生んでしまったといえる。

上記を踏まえれば、欧州委員会は、Nutri-Score システムのような色分けされた信号システムを提案するものとみられるが、その採点方式については、他の加盟国や利害関係者を満足させるために変更を加えるものとみられる。

[2] https://publications.jrc.ec.europa.eu/repository/handle/JRC130125

2. 欧州議会の動き

2022 年 12 月 9 日、欧州議会の農業・農村開発委員会に所属する Paolo De Castro 議員(イタリア出身)は、Nutri-Score システムを有力候補モデルとする EU の義務的な FOPNL 案件は、当面の EU の立法議題から外されたと強調した。

De Castro 議員によると、議題から取り下げるということは、欧州選挙が行われる 2024 年夏までにこの問題が再び議論されることはないことを意味する。すなわち、現在の欧州委員会と欧州議会が、新ラベル制度を提案したり、法制化したりすることができなくなる、という[3]。

2023 年 1 月 9 日、欧州議会の De Castro 議員の事務所に対し、本件についてヒアリングしたところ、このラベルの提案は、欧州委員会が発表した 2023 年～2024 年にかけての立法議題の予定表に記載がないため、廃止されたものとみなした、と強調した。同文書における 164 件の立法案の記載内容を確認したところ、その記載がないという事実は確認された[4]。

しかし、同議員発のこうした見解は、EU レベルの Nutri-Score 導入に反対するイタリアの希望的観測に基づくものとして懐疑的に受け止める必要がある。2023 年 1 月 18 日、イタリア政府ＥＵ代表部の Sarah Guizzardi 氏へヒアリングしたところでは、確かに欧州委員会の提案に関する日程は示されていないが、だからといって欧州委員会による提案がなくなったことを意味するわけではないとした。同代表部は、提案がいつ発表されるのか、あるいは却下されるのかは分かっていない、としている。

前述の通り、欧州委員会の提案では、いくつかの異なる表示形態を比較検討した上で、フランスやドイツを含むいくつかの国や主要な食品メーカーが自主的に広く採用したこともあり、Nutri-Score が有力な選択肢となる、とみられてきた。

De Castro 議員の発表は、フランス保健省の諮問機関である全国健康会議（CNS）が、欧州全域での Nutri-Score の即時導入を求める意見書を発表した直後に行われたものである。CNS の専門家は、EU に対し、市民の健康を守り、できるだけ多くの人、特に最も弱い立場の人が理解できる栄養表示の義務化を採用するよう求め、FOPNL は科学的にその効果が証明されたとした[5][6]。また、CNS は、Nutri-Score が欧州全体の栄養表示義務化の提案として当初期限の 2022 年 12 月中に採択すべきだ、とした。

CNS が意見を発表する前に、De Castro 議員を含む 23 人の欧州議会議員が欧州委員会に公開書簡を書き、Nutri-Score を批判しつつ、別の方法を求めた[7]。署名議員によれば、採用される栄養

---

[3] https://www.oliveoiltimes.com/business/europe-puts-off-decision-on-food-labeling/114945

[4] https://www.consilium.europa.eu/media/60857/joint-declaration-2023-2024-working-document.pdf

[5] https://www.oliveoiltimes.com/health-news/labeling-systems-nutri-score-save-lives-researchers-say/85938

[6] https://www.oliveoiltimes.com/business/europe-puts-off-decision-on-food-labeling/114945

[7] https://www.oliveoiltimes.com/business/europe-puts-off-decision-on-food-labeling/114945

表示はわかりやすくあるべきだが、単純化しすぎてはならない。また、食品に対する価値判断(たとえば現在の Nutri-Score のように、ナチュラルなヨーグルトを加工食品であるヴィーガンヨーグルトよりも不健康だと表示すること)を避け、一食あたりのカロリーや栄養素の情報を提供しなければならない。すなわち、同書簡は、食品が加工されているかどうかなど、ラベルが非栄養素をどのように評価するかについて検討するよう欧州委員会に要請している[8]。

[8] https://www.ansa.it/canale_terraegusto/notizie/istituzioni/2022/11/21/Nutri-Score-eurodeputati-a-ue-no-a-etichetta-semplicistica_08474b72-5ea8-4ef1-9a97-7540de067d91.html

3. その他のラベルに関する動き

3.1. 日付表示

2022 年 9 月に提出した第一回報告書の作成時点から主だった進捗はなし。

3.2. 持続可能性表示

2023 年に発表が予定されている持続可能な食品システムパッケージの一環として、欧州委員会は、食品の栄養、気候、環境、社会的影響を表示する持続可能性ラベリングも計画している。この提案は 2023 年末に予定されており、F2F 戦略では当初 2024 年の予定であった。しかし、2022 年 3 月に 14 の NGO の連合が、製品環境フットプリント（PEF）は食品や農業の評価には適さず、EU 持続可能性表示提案に使用すべきではない、と欧州委員会に警告を発した。これらの NGO は、PEF は収量で評価するため、食品に適用した場合、集約的な農法を最も良く採点し、有機農法を最も悪く採点するため、誤解を招く結果になると説明している。例えば卵を例に取ると、ケージ飼いの鶏の卵は PEF のスコアが最も高く、次いで放し飼い、そして有機卵は最も低いスコアとなる[9][10]。

3.3. グリーン・クレーム

グリーンクレーム(環境クレーム、エコクレームとも呼ばれる)は、商品、サービス、ブランド、またビジネスがどのようにして環境に利益を与えているか、また環境への害を少なくしているかを示した表示である[11]。

環境保護主義があらゆる分野の政策決定に大きな影響を与えるため、グリーンクレームは EU 政策において非常に重要である。EU の政策決定においては、全体的にみて環境保護主義が農業や工業の利益よりも優先されやすく、こうした主張は、EU の主要な発展の方向性に最も強い影響を与えるものの一つである[12][13]。

前述の NGO の書簡では、製品環境フットプリント（PEF）は、EU の単一の方法論を用いた 2023 年提案予定の別の法案で規制される食品表示や広告におけるグリーンクレームの評価には適さないことも強調されている。この提案は、リサイクル性や生分解性など、企業が記載する環境

---

[9] https://www.organicseurope.bio/news/sustainability-labelling-product-environmental-footprint-not-suitable-for-agri-food-products/
[10] https://www.organicseurope.bio/news/sustainability-labelling-product-environmental-footprint-not-suitable-for-agri-food-products/
[11] https://greenclaims.campaign.gov.uk/
[12] https://www.euractiv.com/section/circular-economy/news/eu-to-tackle-green-claims-with-unified-product-lifecycle-methodology/
[13] https://ec.europa.eu/environment/eussd/smgp/initiative_on_green_claims.htm

ラベルや認証を、EU 全域で信頼でき、比較可能で検証可能なものにすることを目的としている。この方法は、16 の環境影響カテゴリーを用いて、原材料の採取から廃棄に至るまで、バリューチェーン全体を通して製品や組織の環境面での成果を測定するものである[14]。欧州委員会は、この提案を 2022 年 11 月 30 日に予定していたものを 2023 年初めに延期し、詳細を詰めることにした[15]。

グリーンウォッシング[16]を防止するために計画されたこの提案は、食品と飲料だけでなく、すべての製品のラベル表示におけるグリーンクレームを対象としている。しかし、現在 EU 市場には 901 の持続可能性ラベルがあり、飲食料品は圧倒的にグリーンクレームの利用者が多い。この提案の前に、2022 年 3 月に行われた提案でグリーンウォッシングが非合法化される予定である。これは、不公正商行為指令（UCPD）[17]の改正を目的としたもので、既に現在欧州議会と理事会に提出されており、2023 年に採択される見込みである。この提案では、グリーンウォッシングは「環境にやさしい」「グリーン」など、実証できない一般的で曖昧な環境主張を行うこと、パッケージなどの一部分にしか当てはまらない製品全体についての主張を行うことを意味すると明記され、違法とされる不公正取引慣行（UTP）のリストに追加される[18]。

非合法な UTPs リストには、第三者検証制度に基づかない、または公的機関によって設立された自主的な持続可能性ラベルも含まれる[19]。

3.4. アニマルウェルフェア・ラベル

近年、アニマルウェルフェアの主張と表示の利用が拡大しているが、対象範囲と認証の両面において、表示制度間で多くの相違がある。中には、より広範な持続可能性評価の一環としてアニマルウェルフェアを考慮する制度もあるが、EU でもその可能性がある。欧州委員会は、EU Animal Welfare Platform のアニマルウェルフェア・サブグループからの 2021 年 6 月の勧告を受け、アニマルウェルフェアの主張と表示を規制することを検討している。

しかし、欧州委員会は、EU のアニマルウェルフェア規則を改革するためのより幅広い 2023 年の提案の一部として、ラベリングを提案すると予想される。欧州委員会とほとんどの加盟国は、ラベルの貼付を義務付けない任意の制度を支持している。しかし、現在の法律下では、生産者

---

[14] https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/have-your-say/initiatives/12511-Environmental-performance-of-products-&-businesses-substantiating-claims_en

[15] https://www.ecotextile.com/2022102729995/labels-legislation-news/ngos-question-value-of-eu-pef-tool.html

[16] 企業などが広告等で環境に配慮しているように見せかける行為のこと。

[17] https://commission.europa.eu/law/law-topic/consumer-protection-law/unfair-commercial-practices-law/unfair-commercial-practices-directive_en

[18] https://www.makethelabelcount.org/globalassets/make-the-label-count/documents/EU-PEF-overview-new-labelling-proposal.pdf

[19] https://www.organicseurope.bio/events/sustainability-labelling-how-can-metrics-foster-or-destroy-sustainability/

がアニマルウェルフェア・ラベルを使用することを選択した場合、EU の基準に準拠する必要がある[20]。

3.5. 点字表示

欧州議会の Francisco Guerreiro 議員(グリーン：ポルトガル出身)を中心に、食品ラベルに点字を義務付けるよう働きかける動きがある。欧州委員会は、F2F 戦略の改訂に向けた提案にこれを含めることで対応することはないだろうと見られている。Guerreiro 議員は、点字を義務化するため、改訂に向けた提案を提出することになる見込みである。しかし、おそらく議会と理事会の両方から反対を受け、点字の義務化が今回の消費者への食品情報提供に関する EU 法(Food Information to Consumers, FIC)の修正に盛り込まれることはないとされている。同議員の提案には、食品ラベルに点字を提供することの可能性を検討し、5 年以内に報告するよう欧州委員会に求める要件が設けられる可能性がある[21]。

以上

[20] https://www.farm-europe.eu/news/livestock-in-the-eu-close-to-a-proposal-for-origin-label/

[21] https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/E-9-2022-004078_EN.html